



神山哲太郎  
公明党議員団 (4)

一般質問等 (抜粋)

★次世代自動車・住宅用蓄電池システムの活用と拡大について 省エネや災害などの停電時対策として電気自動車に蓄えた電気を家で使うシステムへの購入補助を提案し検討する答弁がありました。

★学校開放事業について スポーッ開放時、体育館などにAEDが備えられる状況となりました。

★投票率の向上対策について 投票日当日も駅やショッピングセンターなどで投票できるように要望。また、選挙に関心を持ってもらうためインターネットによる模擬投票をおこなうことを提案し関係機関と協議する答弁がありました。

★苫小牧市乳幼児等医療費助成条例の一部改正について 入院補助をこれまでの12歳から15歳まで拡大されるが通院についても拡大を求めましたが財源の確保が課題との答弁でした。



喜多 新二  
新 緑 (1)

★この度の選挙にて「子供達の未来を創る」をテーマに戦い、市民の皆様にも市政へ送っていただきました。人口減少と高齢化が進むなか、これから20年先を見据えて舵を取らなければならぬ岐路に立っています。まずは地元経済の縮小を防ぐため中小企業を守ること、そして、若い人達が子育てのしやすい都市を目指すための子育て支援を充実させることが重要と考えています。

★子育て世代が集まる都市づくりにより、働き盛りのお父さんお母さんが集うまちこそ産業を支え、高齢者の医療や介護等福祉を支える人材の獲得に繋がります。そのために、子育て費用の少ない街、いじめ問題や不登校などに対応した子育て環境の構築にも取り組んでいきます。初心を忘れずに、身近な課題からコツコツと良い未来を積み上げていきたいと思えます。



木村 司  
新 緑 (4)

★総務常任委員会において、CAP (苫小牧まちなか再生総合プロジェクト) について、この施策の主旨・目的・意義、人口減少・超高齢化社会に向けた「持続可能な苫小牧づくり」のための施策であると再確認し、全市的・全庁的取り組みの重要性を指摘しました。

また、位置付け、市の各施策・計画と連動すること、それを各部署に周知するべきと要望しました。

★都市計画マスタープランについては、CAPの考え方を盛り込んで、苫小牧の顔となる都市、魅力的な中心部の形成の文言が入り、中心部の再開発の重要性が示されていることを評価しました。今後は、市街地地域の縮小を目指すとの考え方の大変換を確認し、将来の開発計画が出た時においても、開発許可時に同等の土地を縮小し、総量を増やさないくらいの覚悟が必要ではないかと指摘しました。



越川 慶一  
改革フォーラム (3)

★「IR」もっと市民へ正確な情報を伝えるべきと指摘し「IR整備法のプロセスとして、具体的な施設、規模などが最終段階でなければ明らかにならず分かりづらい理由のひとつ、今後パンフレットを作成し市民理解が深まるよう検討する」との答弁がありました。

★「プログラミング教育」20年度から必修化となる小学校のプログラミング教育について質問し「手順を踏むと物事が解決できるというプログラミング的思考の育成を目的に、タブレット型端末を小学校全校に導入し20年度から実施する」との答弁がありました。

★「グラウンド砂ぼこり対策」ウトナイ中学校グラウンドの砂が強風時に近隣住宅へ飛散し迷惑していることを指摘し「今後の対策として、防砂ネット及び水まきができる散水栓を9月頃までに設置する」との答弁を引き出しました。